
第4回 最上川中流大規模氾濫時の減災対策協議会 議事概要

日時：平成29年11月21日13時30分～15時00分

場所：雪の里情報館 雪国文化ホール

1. 新庄河川事務所長あいさつ

- お忙しいところ、本協議会へ参加頂きましてありがとうございます。また、平素より国土交通行政にご協力賜りましてありがとうございます。
- 今年の出水ですが、最上川中流に関しては、鮭川で7/23、8/24 真木観測所で氾濫注意水位を40cm超過するような出水がありました。最上川においては、10/23 大石田、堀内観測所において、氾濫注意水位を10cm、20cm超過するような出水がありました。
- 管内ではありませんが、秋田県の雄物川では、観測史上最大の水位を記録しまして7月、8月と、ふた月にわたり出水がありました。九州北部豪雨では、みなさんご存知のとおりので災害がありました。
- 全国各地で洪水が発生している状況であります。
- このような洪水に対応するために、協議会の中で検討しているところでございます。
- これまでに3回協議会を行ってきまして、今回4回目は、「県管理区間の減災取組の追加・変更についての確認」、「要配慮者利用施設の避難確保計画・避難訓練等に関して」、「防災教育の取組」の3点について、今日をご審議を頂きたい。
- 協議会の取組については、水防法の改正によりまして、H27.7に「氾濫区域の見直し公表」、H29.6に「大規模氾濫減災対策協議会の創設」と、話を進めてきているところです。
- 協議会の結果をそれぞれの防災計画に位置づけて頂く、あるいは災害弱者の避難について地域全体で支援するということを含めまして、しっかり協議して参りたいと考えています。
- 今日現状課題、今後の方針等に忌憚のない意見を頂き有意義な会議にしたいとおもいますのでよろしくお願いいたします。

2. 議事

(1) 幹事会の報告について

特になし

(2) 県管理河川の取組事項について

特になし

(3) 要配慮者利用施設の避難確保計画の作成推進について

特になし

(4) 防災教育について

- 防災教育は自分の身を守る意味において、必要なことだとおもいますし、事故を未然に防ぐためにも必要だとおもいます。
- 学校では防災教育の観点から、川・土砂災害等の危険なことに対する教育を行うとおもう。

-
- 私たちが子供の頃は最上川で水泳を習ったが、水質の悪化からプールができて、川は危険なものだという学校教育の指導が長年あった。そのため、川に対する親水性、地域の資源としての川の在り方が遠のいているように感じる。
 - 郷土愛を育むための取り組みの中で、学校では、安全に川の中で遊べるんだということを少しずつ改善してきている。その中で防災教育を推し進めると、一転、危険だという学校側の判断、教育の判断になりはしないか。
 - 危険な部分を教える防災教育、楽しい部分を教える河川環境教育の両方を天秤にかけて進めて頂きたい。
 - 昨年も真室川小学校では防災学習ということで、いろいろと取り組んでいる。それ以前から真室川小学校前の河川で、水辺の楽校という形で河川に親しむ、河川の生態の観察等実施している。
 - 川に親しむ・楽しむ、川の危険性についても含めながら、子供たちを成長させている。危険だけではないということも、しっかり子供たちが身につけながら、将来、地方づくりに寄与してもらえればとおもう。

(5) 各市町村等の取組状況について

- 昨年につきましては、避難勧告を出したときには非常に危険な状態であり、橋を渡らせていいのかどうかというのは、あとで考えると、渡らせなかった方がよかったのかなという思いがあった。
- 松橋川や堀内川は河川勾配が急で河川長が短く、集水域の中心が市町村境の山間部で観測機器もないため、避難情報を出す判断が非常に難しいという問題がある。
- 所長さんから提案頂いたことなどを活用して、さらなる地域の安全を図るために、一刻も早い避難勧告が出せるようこれからもご指導いただきたい。
- 気象庁の危険度分布情報は浸水と洪水については1kmメッシュ、土砂はまだ5kmメッシュだが今後1kmメッシュにする予定である。

中小河川の洪水警報の危険度分布は降水予測と地形によるや雨水の集まりやすさを指標に取り入れて10分毎に色別で表示する。

昨年舟形町での洪水は台風の短時間強雨が要因とみられ、気象台では当日午後には大雨警報、洪水警報を順次発表して警戒を呼掛けた。

本例は危険度分布の試行段階であるが確認したところでは、台風の雨の強さは1時間に60ミリから70ミリと非常に激しく、避難準備行動を取る必要がある赤色の警戒レベルに到達したのは19時頃と推定された。また、台風の強雨はある程度の広さで降ったため一気に危険度が高まり、避難行動をとるべき薄紫色レベルに変化したのは21時過ぎとみられる。

このように雨の降り方により、危険度は刻々と変化するので色の変化に注意していただきたい。

特に赤色からうす紫色への変化は相当な危険度の高まりを示し、さらに濃い紫になった場合は、いつ災害（氾濫）が起きてもおかしくない状況を意味している。

この情報は気象庁ホームページで確認出来るので避難行動の判断に活用いただきたい。

3. その他

特になし

4. 山形県県土整備部 参事（兼）河川課長のあいさつ

- 最上川中流の減災にかかる取組方針の変更案等について、ご協議頂きありがとうございます。本日協議で了承頂きました取組方針の変更については、HP等により一般に公表させて頂きます。
- 水防災意識社会の再構築に向けた取組を継続的に推進するためには、関係機関の連携が重要であり、不可欠となります。
- 今後は、直轄区間と同じく県管理河川についても最上川中流域の減災対策に係る取組方針に基づき、各機関が情報を共有し、一体となった目標実現に向け、着実に取り組んでいかなければなりません。今後のご協力について切にお願いいたします。